

東京都写真美術館
紀要 No.1

東京都写真美術館
紀要 No.1

東京都写真美術館研究紀要の刊行について

東京都写真美術館は、わが国初めての写真と映像に関する総合的な専門美術館として、日本における写真と映像文化の充実と発展をもとめ、平成7年(1995)1月に恵比寿ガーデンプレス内に総合開館しました。

近年視覚表現の重要性への認識が深まりつつある中で、館内には企画展示室、常設展示室及び映像展示室の三つの展示室を設け、内外の写真及び映像の作品・資料・情報・写真の機材などの収集・展示・保存・調査・研究・普及などを含めた総合的な活動を行っています。日本における写真文化のセンターとしての役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指し、ワークショップなど参加型の機能をもち、写真と映像表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援します。

これらに加えて、記録やライブラリーの充実をはかるため、カタログ類とは別に、毎年叢書を出版しておりますが、さらに今回研究紀要を刊行することとしました。その第一弾として本書を刊行します。これは本館の保存科学専門員の荒井宏子氏が、長年にわたり研究してきた成果の一部をまとめたものです。同氏は東京写真短期大学写真工業科(現東京工芸大学芸術学部)を卒業し、千葉大学工学部写真工学科の文部技官として研究に従事し、文化庁派遣の在外芸術家として研修し、現在本館の非常勤の保存科学専門員です。

内容は、「写真画像保存・修復に関する研究の現状」をはじめ「マイカ写真とサットンのパノラマカメラに関する考案」「古典カラープリント“Polychromide Print”の色安定性と今後の保存条件について」「Autochrome Plateの退色と修復に対する示唆」「古典モザイク方式カラー写真の保存性について」「ISO-10214写真包材強制劣化条件の相当保存年数推定に関する一方法」「市販写真包装材料等の写真活性化度試験」などの研究論文を含んでいて、写真画像保存・修復について示唆するところの多いものです。この研究のシリーズが、広く写真文化の普及に寄与することを願ってやみません。

東京都写真美術館長
三木多聞

目次

総説

写真画像の保存・修復に関する研究の現状

- 1 まえがき 7
- 2 写真関係の美術館における保存・修復技術の必要性について 7
- 3 写真画像の保存・修復に関する討議の状況 8
- 4 写真画像の保存・修復に関する研究論文 10
 - 4-1 AIC・PMG関係 10
 - 4-2 その他の外国学会誌 16
 - 4-3 日本写真学会誌 23
 - 4-4 日本写真芸術学会誌 24
 - 4-5 その他 24
- 5 セミナー・シンポジウム 24
 - 5-1 日本写真学会画像保存セミナー 24
 - 5-2 海外におけるシンポジウム 28
- 6 写真等保存・修復に関する専門書 32
- 7 教育・研究・研修機関 33
- 8 情報交換機関 34
- 9 まとめ 35

研究報告

- 1 マイカ写真とサトンのパノラマ・カメラに関する考察 37
- 2 古典カラープリント“Polychromide Print”の色安定性と今後の保存条件について 42
- 3 Autochrome Plateの退色と修復に対する示唆 47
- 4 古典モザイク方式カラー写真の保存性について 52
- 5 ISO-10214写真包材強制劣化条件の相当保存年数推定に関する一方法 57
- 6 ISO-10214写真包材強制劣化条件の相当保存年数推定に関する一方法(2)測色的検討 60

試験報告

- 1 写真印画の長期保存に対する現用包装材料の適否に関する試験報告 63
- 2 写真保存用包装材料としての和紙の適性について 69
- 3 修復・装幀用糊剤の写真適性 73

現在「計画・進行中」の試験研究

- 1 古典写真印画、特にアルビュメン印画(鶏卵紙)の複製・復元方法 77
- 2 古典印画復元用基板紙の写真活性化度試験 77
- 3 1990年代後半のカラー印画の画像保存年数推定に関する試験研究 78
- 4 バライタベース黑白印画紙とRC(樹脂)ベース黑白印画紙との耐久性に関する比較試験 79